



森林サービス産業全国交流会「Forest Value Summit 2025」

～森林サービス産業の最前線と共創の場～

<登壇者の紹介>

【話題提供】

「話題提供」の時間では、林野庁が推進する「森業」に関する最新の政策動向をご紹介し、山村地域の活性化に向けた森林空間の利活用の可能性について考察します。さらに、岐阜県の森林サービス産業の育成に向けた取り組みや、地域と企業が協働する中で見えてきた課題や展望を共有し、これからの森との関わり方を考える導入的なセッションとして位置づけています。

トヨタ白川郷自然学校の紹介

～五感と喜怒哀楽を手放すな！

氏名 山田俊行（ヤマダ トシユキ） / 所属 トヨタ白川郷自然学校 学校長

【プロフィール】

当校の立ち上げから関わり 2005 年開校時より職員となる。2011-13 年は安藤百福記念自然体験活動指導者養成センターへ出向。2015 年より現職。自然体験活動推進協議会副代表理事、日本ロングトレイル協会理事、日本野外教育学会理事、JAPAN OUTDOOR LEADERS AWARD 運営委員長、ぎふの田舎へ行こう推進協議会会長、白川村立白川郷学園学校運営協議会会長など。

〔分科セミナーの概要〕

当校は企業（トヨタ自動車）と地域（白川村）と NGO（7 団体）の協働により運営されている自然学校です。自然学校とは自然の中やアウトドアで人づくりを行うところといわれています。白川村の自然の中でどのようなビジョンとミッションを掲げ、具体的に何をしているのかをご紹介します。

〔キーワード〕 企業×地域×自然学校

森のようちえんの次なる挑戦「Haha-mori プロジェクト」

～母と森が繋がり 母も森も輝く～

氏名 浅井 智子（アサイ トモコ）

/ 所属 一般社団法人 MORIWARA・自然育児 森のわらべ多治見園

【プロフィール】

MORIWARA 代表理事・森のわらべ園長。

育児&保育&幼児教育に加え、心理学やコミュニケーションも深く学びつつ、自らの育児体験、森のようちえんの園長としての実践を重ね、多くのお母ちゃんたちの傍らに寄り添い続ける。オルタナティブな保育・教育の実践にとどまらず、「世界平和の鍵は母と子の笑顔」をスローガンに様々な事業展開に向けて邁進中。

〔分科セミナーの概要〕

今、日本において「森」も「母」も元気を失っているように感じられます。本来命の宝庫であり、命の育みになくてはならない二つの存在・森と母。このふたつが輝きを取り戻したら日本全体が再生され元気になる！森の成り立ちを学ぶ中に子育てのヒントがたくさんあることに気付いた私たち森のわらべは、母たちが森を活用するだけでなく、積極的に森づくりに関わるための「Haha-mori プロジェクト」を立ち上げました。2025年度から始まったこの取り組みを紹介します。

〔キーワード〕 森林サービス産業 × 親育ち

【飛騨高山】久々野の森時間 vol.0

～スキー場跡地等を活用した体験プログラムと地域連携～

氏名 桐山 淳一（キリヤマ ジュンイチ） / 所属 （株）MGN

【プロフィール】

市営スキー場の閉鎖（1963 年開業～2023.3 閉鎖）を受け、スキー場跡地の活用を高山市に申し出る。同年 9 月建物・設備の一部（市有財産）の無償譲渡を行い、現在は跡地を活用した 20 万本のひまわり園やキャンプ場、雪遊び場の運営をするなど年間を通じて様々なアクティビティの提供を展開している。

氏名 足立 真樹（アダチ ナオキ） / 所属 （株）長瀬土建

【プロフィール】

（株）長瀬土建は地域のインフラを支える建設事業者（1959 年設立）。約 15 年前に林業に参入し、欧州林業の先進事例に触れる。地元企業として森林の課題や地域活性化に積極的に関わろうと森林サービス産業を開始。発表者はこのような活動に興味を持ち、約 30 年間勤めた地方公務員（高山市役所）から転職し絶賛奮闘中。

〔分科セミナーの概要〕

- ・ 飛騨高山の支所地域でスタートした森林サービス産業の事例を紹介
- ・ 地域の課題解決として森林資源を活用
- ・ 地域の様々なキーパーソンとの連携によるプログラムの実施

〔キーワード〕 森林サービス産業 × 地域連携

【分科セミナーの紹介】

＜分科セミナーA＞

都市近郊の私有林を舞台に、遊びを通じた持続可能な山林経営を実践する（株）T-FORESTRY、熱エネルギーを域内供給する薪火レストランを核に森林資源・観光・食を循環させる（株）BASE TRES、災害をきっかけに企業と森をつなぐ新たな関係性を築く（株）ソマノベース。それぞれの事業者が、森と人・地域を結ぶ独自のアプローチを紹介します。多角的な森林活用の最前線に触れ、森の未来を考えるヒントが満載な内容となっています。

【A-①】

「遊びが森を守る：持続可能な山林経営の実践と未来」

氏名 鈴木 毅人（スズキ タカヒト） / 所属 株式会社 T-FORESTRY

【プロフィール】

1975 年東京都世田谷区生まれ。神奈川県西部に移住し、現在は株式会社 T-FORESTRY 統括マネージャーとして、辻村農園山林の多角経営に取り組む。森林サービス産業の先駆けとして多様な事業を展開し、T-FORESTRY は令和 6 年度農林水産祭にて林産部門の最高賞「天皇杯」を受賞。海と山の魅力を活かし、自然と調和した新しいライフスタイルの提案を追求している。

〔分科セミナーの概要〕

神奈川県小田原市で私有林約 70ha を活用し、森林整備とレクリエーションを両立させる「フォレストアドベンチャー・小田原」、「フォレストバイク」、「ハンターバンク」などの事業を展開。都市近郊の森林空間を有効活用し、人を呼び込む仕組みを構築する中で、自然と調和した持続可能な山林経営を実現してきた実践例と、遊びを通じて森の価値を高める新たなモデルの可能性を紹介します。

〔キーワード〕 森林サービス産業 × 多角経営

【A-②】

熱エネルギーを域内供給する薪火レストランを全国に！「自然資源を循環させ、森と食と観光とを繋ぐ」

氏名 松本 潤一郎（マツモト ジュンイチロウ） / 所属 株式会社 BASE TRES

【プロフィール】

西伊豆松崎町に移住後、古道再生と里山整備を推進。再生した古道を駆ける MTB ツアー「YAMABUSHI TRAIL TOUR」、自伐木材でリノベーションした宿「LODGE MONODO」、給湯・調理・暖房のエネルギーを熱循環させる薪火レストラン「QUEBICO/クエビコ」を運営。

【分科セミナーの概要】

- ・日本初の熱エネルギーを自立自給する薪火レストランの立ち上げ。
- ・森×泊×遊×食をひとつの循環型サービスとして構築。
- ・【林業・観光業・飲食業】と縦割り分業されていたものをミニマムに集約。薪火レストランを地域のハブ拠点とし、森林整備、ツアー、宿泊へと多面的な導線をつくる。
- ・自社で伐採する木々を薪に内製。薪火レストランや宿泊施設の熱エネルギーとして利用し、エネルギー課題から脱却する。

【キーワード】 森林サービス産業 × 食と観光

【A-③】

「心地よい関わりの先に、災害のない未来を～人と森を繋ぐ新しいカタチ～」

氏名 奥川 季花（オクガワ トキカ） / 所属 株式会社ソマノベース

高校時代に地元で紀伊半島大水害により被災し、災害で人が亡くならない世の中を作りたいと志す。同志社大学で商学を学んだ後、ボーダレス・ジャパン、防災 NPQ、造林を行う(株)中川などの会社で働く。防災や林業土砂災害リスクの低い山づくりを目指し(株)ソマノベースを設立。代表取締役を務める。

【分科セミナーの概要】

ソマノベースが提供する「戻り苗」を軸とした人や企業と森を繋ぐ様々なプロジェクトについて事例紹介をおこないます。またそこから広がる森への関心や関わりもお伝えします。

※戻り苗とは、家庭やオフィスで植林用苗木を育てられる新しいカタチの観葉植物です。

【キーワード】 ※森林サービス産業 × 人や企業との関わり

＜分科セミナーB＞

森林を活用した新たな可能性を探り、環境への貢献と企業価値の向上の両立を目指し、森と未来、more trees、モリアゲの3社による「企業による森林サービスを活用した新たな価値づくりプロジェクト（通称ももも）」子どもが遊び尽くせる森づくりを軸に、保育・木育・人材育成を展開する（特非）Akita コドモの森。森林セラピーを活用し、企業研修や療育、地域づくりを実践する「癒しの森®」事業に取り組む（株）さとゆめ。それぞれの事業者が、木材生産にとどまらない森林の可能性を、「価値創出」「子育て」「健康」の三つの切り口から掘り下げます。森が社会にもたらす新たな価値を考えるヒントが詰まった内容となっています。

【B-①】 森と企業の共創が拓く、新たな価値とは？	
氏名 小野 なぎさ（オノ ナギサ） / 所属 一般社団法人森と未来	
【プロフィール】 東京農業大学 森林総合科学科を卒業。企業のメンタルヘルス支援を経て、森林を活用した研修や観光、人材育成に約15年従事。3,000人以上を森へ案内し、森林浴の普及を国内外で推進。2015年に一般社団法人森と未来を設立、代表理事として活動。林野庁林政審議会委員、認定産業カウンセラー。	
氏名 水谷 伸吉（ミズタニ シンキチ） / 所属 一般社団法人 more trees	
【プロフィール】 慶応義塾大学経済学部を卒業後、(株)クボタで環境プラント部門に従事。その後インドネシアでの植林団体に移り、熱帯雨林の再生に取り組んだのち、2007年に音楽家・坂本龍一氏の呼びかけによる森林保全団体「more trees」の立ち上げに伴い、活動に参画し事務局長に就任	
氏名 長野 麻子（ナガノ アサコ） / 所属 株式会社モリアゲ	
【プロフィール】 愛知県生まれ。東京大学文学部フランス文学科を卒業後、農林水産省に入省。2018年から3年間林野庁木材利用課長として「ウッド・チェンジ」を各地で叫び続ける。豊かな森を次代につなぐことを勝手に天命と感じ、2022年に早期退職し、日本の森を盛り上げる株式会社モリアゲを設立し、森林業コンサルタントとして全国の森をモリアゲ中。	
〔分科セミナーの概要〕 企業と森林が共に価値を創出する新たな関係性を探るセッションです。森と未来、more trees、モリアゲの3社による「企業による森林サービスを活用した新たな価値づくりプロジェクト」を紹介しながら、企業が森林空間とどのように関わり、社会的・環境的価値を生み出していけるのかを考えます。森林サービス産業の可能性を広げる実践例や課題を共有し、参加者同士の対話を通じて、地域や業種を越えた連携や新たな事業のヒントを得る機会とします。	
〔キーワード〕 森林サービス産業 × 企業	

【B-②】

森林空間活用の成功ポイントは「子どもの育ち+森づくり+人材育成」。
～秋田の取り組みの事例発表～

氏名 小玉 朋子(コダマ トモコ) / 所属 特定非営利活動法人 Akita コドモの森

【プロフィール】

20年前自然遊び親子サークル設立。現在は野外自然保育オーガニック給食を特色とした認定こども園運営。他、子育て家庭を対象に野外活動事業、秋田県の「野外自然保育・木育・森林環境学習指導者講座」森の保育士養成をはじめ行政からの様々な受託事業もおこなっている。森林環境保全から「全ての子育て家庭に木のある暮らしを」を目標に、県産国産材で親子木工開催や食器家具玩具等の商品開発も行っている。秋田県木材利用促進委員。

【分科セミナーの概要】

秋田県の「男鹿の森」は、多様な表情を持つ森林空間で、環境や生態系に配慮し整備された、子どもたちが遊び尽くせる貴重な森です。保育士研修でも高評価で、遠足先に選ぶ園が急激に増加。専門家も大絶賛する森づくりのヒントが詰まった森です。また、秋田県では、野外自然保育や木育を支える「森の保育士」養成も進み、森林空間活用に欠かせない「子ども×フィールド×人材」の環境が整い始めています。そんな秋田での取り組みを発表。

〔キーワード〕 森林サービス産業 × こども&環境

【B-③】

「信濃町と「癒しの森®」事業 ～森林セラピーを主軸とした地域活性化と企業連携～」

氏名 宮嶋 真由 (ミヤジマ マユ) / 所属 株式会社さとゆめ

【プロフィール】

信州大学 農学部 農学生命科学科 森林・環境共生学コース卒。

教育業界で自然科学体験プログラムの講師や人材育成等に従事する傍ら、長野県信濃町森林メディカルトレーナーとして、企業研修、学校団体受け入れ、子どもの療育プログラム等で森林セラピーの提供に携わる。2025 年より(株)さとゆめに参画し、コンサルタントとして全国、長野県の森林サービス産業推進に従事。

【分科セミナーの概要】

信濃町では 2002 年に「癒しの森事業」がスタートし、23 年が経過してもなお継続され続けています。今では 40 社近い都市部企業が研修や福利厚生などで利用するようになりました。

癒しの森事業では、立ち上げ当初より「癒しの森を中心としたまちづくり」を掲げ、「地域がより住みやすく魅力ある町になるための事業」として推進してきました。事業創出の背景や経緯をご紹介しながら、地域・社会課題の捉え方、地域全体での複合的なサービス創出について考えていきたいと思います。

〔キーワード〕 森林サービス産業 × 地域・企業・健康

＜分科セミナーC＞

木材以外の価値を森林から創出し、「誰にとっての、どんな価値か？」を問い直す（株）百森。地域の森林を教育・交流・関係人口づくりに活かし、多世代が自然を媒介に関わる場づくりを展開するまたね自然学校。セロトニン・マネジメントを軸に、健康・医療と森林空間を結びつけたまちづくりを推進する（株）日本クアオルト研究所。それぞれの事業者が、地域資源である森林の多様な価値や可能性に着目し、「山林活用」「地域づくり」「健康」の視点から、森林サービス産業の枠にとらわれない新たな展開と連携の可能性を考えるヒントが詰まった内容となっています。

【C-①】

その価値は誰にとってのどんな価値？～「共通の価値」はない～

氏名 清水 美波（シミズ ミナミ） / 所属 株式会社百森

【プロフィール】

大阪府茨木市・神奈川県横浜市出身。千葉大学園芸学部緑地環境学科卒業後、地域おこし協力隊として西栗倉村に移住、株式会社百森に入社。森林活用分野としてイベントの企画運営、一般の方への山林利用のコーディネート、生物多様性の取り組みを担当する。

〔分科セミナーの概要〕

スギヒノキ人工林が面積の大部分を占める西栗倉村には息をのむような美しい大自然や目玉になるような天然記念物はいませんが、どうやって木材生産以外の価値を森林で創りだせるかに挑戦しています。今森林の重要性が叫ばれているときだからこそ、ただそこに森があればみんなの共通の価値になるのではなく、誰にとってどんな軸でどんな価値なのかを考えながら企画をすることがなぜ大切なのか、日々の試行錯誤と気づきをお話しします。

〔キーワード〕 森林サービス産業 × 企業

【C-②】**「地域に根ざした森林活用プロデュース」**

氏名 斉藤 竹夏（サイトウ タケカ） / 所属 またね自然学校

森のようちえん「つむぐり」

【プロフィール】

「またね自然学校」代表理事：斉藤竹夏（たんたん）

伊豆を拠点に、森のようちえんや自然体験を通じて、子どもも大人も“自分を生きる力”を育める場づくりに取り組んでいます。教育・地域・環境をつなぐ実践の中で、人が根を張り、伸びやかに育つための「土壌づくり」を探究しています。

【分科セミナーの概要】

伊豆市で展開する「またね自然学校」や森のようちえん「つむぐり」の事例をもとに、地域の森林を教育・交流・関係人口づくりに活かす具体的な取り組みを紹介します。幼児から企業人まで、多世代が自然を媒介に関わる場づくりや、市有林を活用した事業構築のプロセス、行政・民間連携の在り方など、実践を通じた学びと課題を共有し、地域に根ざす森の可能性を探ります。

〔キーワード〕 森林サービス産業 × 「地域に根ざす森の可能性」

【C-③】**「森林を活用する新潮流 クアオルト×セロトニンでウエルビーイング」**

氏名 大城 孝幸（オオシロ タカユキ） / 所属 株式会社日本クアオルト研究所

【プロフィール】

2度の心臓手術の後に、ドイツで公的な医療保険が適用され、心臓のリハビリに使われていた運動療法に巡り合う。これまでに130を超える自治体を訪問して啓蒙普及に東奔西走。現在全国で33エリアと連携し地方創生と健康寿命延伸を軸に、自治体と民間を結ぶ公民連携で活躍。山形県上山市の「第2期上山型温泉クアオルトビジョン」作成にも関わり、2016年からクアオルト健康ウォーキングアワードを主催、現在に至る

【分科セミナーの概要】

ドイツのクアオルト（健康保養地）に学び、健康なまちづくりを自治体に提案。地域資源を「運動」×「栄養」×「休養」×「価値（パーパス）」の視点で再編集。公民連携を基軸に、メンタルヘルスを意識した「セロトニン・マネジメント（セロトニン研究の第一人者・有田秀穂先生と連携）」のプログラムを開発。都市と森林を結び付け、関係人口を増やすことに注力。地域の観光資源と健康を結びつけた最新事例を紹介します。

〔キーワード〕 森林サービス産業 × 健康・医療